

宮崎学園新聞

2025年
第8号宮崎学園
高等学校
新聞部

青春のひとかけら

例年とは違った翠星祭

九月四日・五日に翠星祭（文化祭）が行われた。今回のテーマは「翠星に輝く答えがない瞬間に全力を」だった。あいにく今年は台風の影響で一日目の開会を遅らせ、時間短縮での開催となったが、全生徒が共に協力し合い、笑顔に満ちた翠星祭となった。



▲最優秀賞に選ばれた2年J組

一日目はクラス展示だった。各クラス決められた予算内で工夫し合いながら準備を進めていた。誰一人として仕事を持っていない人はおらず、自分の担当を的確に行動に移している様子が見受けられた。その結果、全クラス、期間内に仕上げる事ができた。今年は前年に比べて体験型が多かったため、どのクラスも多くの来場者で溢れていた。最優秀賞に選ばれた2年J組の実行委員長は、「各担当の連携調整に苦労した。また、教室の装飾が多く、クラス内で細かく役割を決めていたので、情報共有が難しかった。しかし当日では準備の成果もあり満足できる仕上がりとなつて良かった。」と語っていた。

また、同日に記念ホールで行われた個人ステージでは、学年に関係なく選ばれた生徒たちがそれぞれ才能を発揮した。発表者はステージ上で、今まで練習や準備してきたことの成果を発揮している様子がみられた。観客席では、ペンライトなどを使用しながら全体を盛り上げていた。参加者たちが最高のパフォーマンスを発揮できるように、生徒会や実行委員などが連携しながら運営を行っていた。

クラス展示	合唱
最優秀賞 2年J組	最優秀賞 1年B組
優秀賞 1年K組	優秀賞 1年A組
	優秀賞 1年L組



▲1年生の合唱コンクールの様子



▲個人ステージの様子

かな大会となった。優勝した1年B組の指揮者は、「練習の時は、タイミングが合わせづらいところがあり、全体のバランスをとるのに苦戦した。しかし、本番では練習で苦労したところがうまくいって良かった。そして、合唱を通してみんなで一つの作品を作り上げる感動を味わえて嬉しかった。」と語っていた。

文化祭実行委員長の杉尾真悠さん（2J）は、「全クラスをまとめていたから、情報伝達に時間がかかった。また、実行委員の仕事内容を明確に決め、計画通りに進むように行動することが大変だった。」と語っていた。今年の翠星祭は台風の影響で日程変更もあり、例年とは違う形で行われたが、全生徒が楽しめたものとなった。（川越・児玉）